

第 31 回 高知県四万十川流域保全振興委員会（議事録概要版）	
日 時	令和 6 年 11 月 26 日（火）10:00 から 12:00
場 所	高知県保健衛生総合庁舎 1 階大会議室
出 席	出席者名簿のとおり
議 題	（１）四万十川条例施行規則の改正について（報告） （２）河川環境保全部会の活動について（報告） （３）四万十川条例に係る令和 9 年度目標指標について（審議）
配布資料	別添参照

（開会）

- ・委員 13 名のうち 10 名が出席。過半数の委員出席により、委員会の成立を確認
- ・「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき議事概要をＨＰで公開する旨報告
- ・会長、副会長の選出：会長に鎌田委員、副会長に平塚委員を選出

【議題】（１）四万十川条例施行規則の改正について（報告）

事務局：資料「報告事項①」により説明。

〈主な意見等〉

会 長：学校における環境学習にも普及したいとのことだが、ゴープロなどの機材は学校への貸出も可能か。

事務局：現在は県衛生環境研究所にある 1 台のみだが、今後確保に努めたい。

委 員：規則改正について、法令等に基づく本委員会の位置づけを委員に示すべき。

事務局：今後は、規則等に基づきお示しさせていただく。

【議題】（２）河川環境保全部会の活動について（報告）

事務局：資料「報告事項②」により説明。

〈主な意見等〉

委 員：四万十川では、土砂供給不足による河床低下やカワウの飛来、海水温の上昇などの影響を受け漁業資源の減少が課題となっており、四万十川漁業協同組合連合会では親アユの確保のための禁漁や産卵場の整備などの対策を講じている。

会 長：試験施工として行う、置土の方法等について教えていただきたい。

県河川課：今年度は、大粒径石材の置土を 3 カ所施工した後、モニタリングを実施する予定であり、河床低下の改善や河床のクレンジング効果を期待している。

会 長：置土の材料が施工場所の粒径分布等と合うかなど、予測や科学的根拠の情報が

不足しているように感じるため補足いただきたい。

県河川課：今後の経過を踏まえて整理したい。

委員：試験施工の結果について、定量的・学術的に評価をしていくことになるため、効果の判定には数年以上の時間を要すると想定する。

副会長：施工場所近傍でのトラックの通行等について、区長以外の住民への説明など安全面への配慮はされているか。

県河川課：安全面への配慮について、土木事務所と共有し対応を考えたい。

委員：四万十川の保全に向けた試験施工を実施している旨を住民にも発信し、住民とも意識の共有をすべきではないか。

委員：地域の方との意見交流は部会としても進めるつもりだが、地域や住民との連携に関しては本委員会も協力していければよい。

委員：置土等の試験施工のみならず、森林整備や植生変化の把握など、川に関わる様々な問題を部会において議論することを検討いただきたい。

委員：部会では、現状、試験施工のフォローアップに長期間を要するため、新たな議論を進めることは難しいが、四万十川に関係する団体や行政を本委員会がコーディネートする議論をすべきではないか。

会長：委員会の重要な役割であると思うが、年1、2回の委員会でそれぞれの動きを共有することは難しいため情報共有のあり方なども検討しても良いと考える。

会長：河川環境保全部会は、県の土木部の事業に対してサジェスションやモニタリングを行い、本委員会に進捗状況が報告され議論を行い、事業に対してフィードバックを行う流れと理解。

【議題】（3）四万十川条例に係る令和9年度目標指標について（審議）

事務局：資料「第1号議案」により説明。

〈主な意見等〉

委員：具体的に何をどう測り評価するのかが不透明であるため、指標の評価に必要な、指標、基準、方法をできる限り示していただきたい。

委員：津野町における四万十川流域は旧東津野村であり、指標に用いる行政人口が旧葉山村を除いたものになっているかご確認いただきたい。

副会長：ごみの排出量など、流域市町村の目標設定が可能なものは流域の状況に合わせた目標にすべきではないか。

委員：地元中高生の地元就職率や協働の川づくり事業における協定件数など、指標の変更によりこれまで定点観測していたものが途切れるのではなく、これまでのものも合わせて観測していくと良いのではないか。

委員：目標達成に向けて、どう取り組むべきかを示すと分かりやすいのではないか。

委員：川で遊んだことのある子どもの数など、比較対象（県内の他河川）のある指標については非常に分かりやすい。

委員：住民に私事としてどのように取り組んでもらうか、また市町村としても自分事として町の中で皆で考える仕組みをどう作るかを考えないといけないと感じた。

委員：流域人口の減少は顕著であり、歴史文化の伝統行事などを守るには様々な部署の連携が重要になると考える。

委員：今後、指標項目をどう改良していくのかを明確にさせていただく必要があるが、この議論を経て、事務局はどのように検討していくのか。

事務局：いただいた意見をもとに、再度お諮りしたい。

会長：委員の意見にもあったように、目標達成に向けて誰がどのように取り組むのか役割分担などを示せた方が良い。

ごみの排出量の指標などは、流域市町村間の目標の比較をしながら、皆で底上げできる情報を提供していくのが本委員会の重要なミッションである。

川で遊んだことのある子どもの数は環境教育として行政の施策で支えるほか、漁協と学校の連携による体験授業を実施し、活動数を測るなど、皆が前向きに取り組めるような指標について議論ができると良い。

それぞれの地域で奮闘している方に対してどのような支援ができるのかを皆で知恵を絞ることが大事だと感じる。

市町村など、全体の協力を得ながら、皆の意識で自分事として取り組めるように、重点的な指標をいくつか決めて次回検討したい。

（閉会）